

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100308		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター桑名いずみ		
所在地	桑名市和泉662-1		
自己評価作成日	令和2年 6月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyoSyCd=2490100308-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 8 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆつくり」を基本方針とし、入居者の皆さんが安心して生活が出来るように努めています。今年度より介護予防の一環として「シニアヨガ」・セラピー活動として「ガーデニングセラピー」や「ドッグセラピー」を取り入れています。今後も介護予防活動に力を入れていく予定です。新たな取り組みでは「あなたの夢を叶えます」プロジェクトを立ち上げ、入居者様及び御家族様の夢をスタッフ全員でサポートできるようにすすめていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には工場や倉庫が多く、また新興住宅や集合住宅などが混在する地域で、開設7年目を迎える。昨年からのコロナ禍で、地域交流・外出・面会・ボランティア団体の訪問などができなくなり、利用者の行動範囲が悉く制限された。その中でも職員が工夫を凝らして利用者の要望にできる限り応えようと支援をしている。今年度は管理者をはじめ職員の入れ替わりがあったが、新しく就任した管理者は、ゆったりとした生活の中で利用者・職員がなんでも話し合える関係づくりを目標にしていきたいと考えている。新たなメンバーで決意をもってまた一からの出直しと意気込みを感じさせる事業所で今後が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員からの応募による理念の話し合いとそれに基づく決定を行い作成した。玄関ホールと事務所などに掲示し確認できるようにした。	職員の意見で作成した理念『人に対する思いやりを持ち、一人一人を尊重しながら寄り添い、日々の生活を支える』を掲示し、職員ミーティングでも確認し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の要望でこの施設を子供たちの畹耕治の見守りと緊急時の駆け込み場所として登録した。(こども見守り隊)	コロナ禍でほとんど地域交流はできていないが、日常の散歩で出会った住民と挨拶を交わしている。『こどもSOS』の受け入れに、桑名市より感謝状が届いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会議の地域の高齢者の方をお招きし介護が必要になった場合の申請の仕方や認知症がすすんだ場合に活用できる成年後見人の制度などの勉強会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月にて開催近隣の病院のケースワーカーさんや近隣の高齢者なども参加頂きグループホームの取組みや役割について報告や話し合いを行った。	運営推進会議は、コロナ禍で令和2年5月以降開催できていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回の運営推進委員会には市の職員や地域包括の方に参加頂き御意見やアドバイスを頂いている。	分からないことや困りごとでは問い合わせをして相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社独自のマニュアルがあり、それを活用して3ヶ月に1回は会議を行っている。身体拘束の悪影響やスピーチロックのような身体だけではなく言葉で身体拘束となる事など職員全員が理解し、ケアを実践している。	会社独自の身体拘束に関する指針があり、それに基づいて職員の研修や身体拘束廃止委員会を開催している。職員は身体拘束にあたる不適切なケアについて理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修時に行い、虐待事例など周知し、普段の介助の中で何気ない言動がふさわしいのかどうか、虐待の定義に触れないかなどの検証を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には2名の成年後見人制度を活用した方がみえる。後見人との打ち合わせや日ごろの連携を通じて学ぶ機会があるが、これから活用される入居者の方も増えてくると想定されるので具体的な勉強の機会を設けたいと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する書類は多いので持ち帰って頂き、目を通してもらうようにしてから署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報を月1回発行して、御家族に様子を報告している。家族が来所の際には御意見や要望を聞き取れるよう努めている。	現在家族の面会は禁止となっているが、最近ではライン通話・動画での顔合わせができています。家族からの意見・要望があれば職員間で検討し、できる限り希望に添えるようにしています。	広報『いずみだより』を一新し、継続して毎月家族に届けられるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングの際に意見を聞き取ったり各人からの意見を聞くようにはしている。自ら事務所に来ること多い。	職員からの意見・要望は多く、上司が会社に相談して要望等に応えることもある。現在職員からの要望で、乾燥機の購入を打診中である。定期的に管理者が個人面談して個人の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は会社の規定に沿っている。勤務時間などは、従業員の家庭の事情などを配慮し希望に添えるようにしている。資格取得なども積極的に行えるよう、シフトの調整を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修を行い介護技術や接遇などの技術を向上できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流について、検討をしているが、機会が持てていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、納得されて入居されてこない方もいて中々本音や今までの状況などを聞きだすことが難しいが、誠実な態度で信頼関係を築いていく中で聞ける話もあるのでそれをサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も最初から本音や困りごとを話されないことが多い。入居さん同様に誠実に対応し本音を聞きだせるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に一番困っていることを出来るだけ詳しく聞きだしサービスに反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人が出来ることを見極め施設内の役割を担ってもらえるようお手伝いし家族のような関係性を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に取れるように家族とのコミュニケーションをとれるようにしているが、家族と本人の関係性や家族の考え方により難しい場合もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や旧友の来所など、時間外でも受け付けてゆっくり面会できるよう心がけている。	コロナ禍で、家族の訪問や今まで続いていたボランティアの訪問もなくなった。馴染みの美容院などに行けなくなったが、理容師の資格がある職員が利用者の髪を切ってくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立はしないよう心がけている。ただ、過去の経歴や生活習慣などに固執し、認知症も相まって上手く関係を築けない方もいて支援が難しい場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除の手続きの際には今後の困りごとがあった場合には相談に応じさせて頂く旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を上手く伝えられない方もみえる。「あなたの夢を叶えます」プロジェクトを立ち上げ意向をや思いを伝えやすい機会を作っている。	日常生活の中でもささやかな夢を持ってもらい、生きる力となるよう支援している。利用者の思いや意向を吸い上げられるよう寄り添って傾聴し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に過ごされた週間などを尊重しています。入浴は毎日入っていただくことが可能です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、介護日誌にて日々の様子を記録し、職員間で情報を共有して、職員の交代時に申し送りを欠かさず行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化・精神面などの変化に応じて、必要と判断した場合は担当者介護を開催している。	入居時に行うアセスメントに、利用者の状況を見ながら、業務日誌や申し送り時の意見などを参考にモニタリングを行う。ケアプランの更新時にはサービス担当者会議を開き、利用者の現状にあった介護計画を作成しケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などから 気づきや変化 情報などを収集し職員で共有し確認し今後の介護に反映できるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携の介護タクシーを利用し、買物や家族との外食などの希望を出来る限り支援している。身体的なニーズにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前にある自販機に買物に出かけたり、スーパーに買出しにでかけたり、歩いて行ける範囲にある神社、寺を目標に散歩に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で月2回の往診がある。体調の変化など正確に伝えられるよう努め、変化が大きい場合は家族と連絡し受診や治療につなげている。家族の同行が難しい場合は職員が同行する。	入居時に以前からのかかりつけ医を継続するか、協力医に診てもらうのかを選択してもらい、協力医には月2回の定期訪問診療を依頼し、訪問看護と連携して終末期可能などまで診てもらっている。かかりつけ医には家族・職員が同行して介護タクシーで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の往診で細やかに体調の変化に気づいてもらえる。変化がある場合はかかりつけ医に相談し、受診や治療につなげてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、介護サマリーを提供し、本人だけでなく家族の状況なども説明するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは会社の指示があるまで行えないが「重度化した場合に係る指針」にて書面を取り交わしており、家族の希望に沿って最大限の対応をさせて頂いている。	終末期を迎えた時、本人・家族の希望に沿った方向で支援している。医療行為が必要な場合には転居し入院となるが、自然に老衰を迎える時には最後まで見守り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宝神作成の緊急マニュアルを使用しての研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施、避難経路 誘導の仕方、消火器の使用の確認を実施。近隣の高齢の方にも参加頂き行っている。	年2回消防訓練を実施している。2回のうち1回は消防署立ち合いで行っている。避難経路や誘導、消火器の使用について指導を受けている。	前回の避難訓練を実施した際、消防署から指導を受けたことでもある職員の災害時の役割分担表を作成し、いつ何時でも慌てることなく利用者を守るよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、何気ない声掛けや言葉使いがときにプライバシーの侵害になる事がある事など、尊厳が守られるような接し方、言葉使いを心がけるようにしている。	日常の何気ない一言で利用者を傷つけることの無いよう、職員間で話し合っけてケアに当たっている。利用者同士の関係性にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中から希望や思いを聞きだせるよう、信頼性を築けるように努めている。出来る方は、本人の嗜好に応じた衣類や小物などを選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝などの時間は特に決めていない。飲み物などの嗜好品も自分で出来る方は選んで		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣など自分で出来る方は選んで頂いてきてもらっている。理容師の職員が居るので自ら上方や毛染めなどを依頼され、楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の資格者が居るので、メニューを考案している。出来るだけ好みのものを提供して楽しめるよう努めている。調理の下準備や皿洗い、配膳など出来る方は積極的に参加してもらっている。	調理に長けた職員が献立を考え、食材を業者に発注し、届いた食材で3食とも職員が交替で調理している。地元の旬の食材で温かく美味しい料理を提供できるようにしている。可能な限り利用者に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態を綿密に観察し、水分不足や便秘などの確認をしている。それらに応じて好みの飲み物や飲む機会を細かく分けて提供してみたり、食欲のない方には食べやすいものを提供したりしている。また、嚥下の状態も考え食事の形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に月一回の往診と、歯科助手による週1回の口腔内の清掃を希望者に行っている。職員にも口腔ケアの重要性を周知し、食後の口腔ケアを促すよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さんの状態にもよるが、オムツは使用せず、リハビリパンツを使用し自立を促している。定期的な声掛けで誘導するようにしている。	オムツなど全介助の利用者はなく、約半数が自立している。個々の排泄パターンや一日の流れの中で声掛けをしながらトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食事内容にも配慮。水、脂成分、炭水化物による便叢の増加などに配慮し献立も考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	年齢的なことや健康状態にも配慮が必要だが希望される方には毎日入浴してもらっている。	基本的には毎日入浴支援することとしているが、利用者の意向を聞きながら延期することもある。一人一人湯を入れ替えて清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じて居室内で自由に休んでもらっている。夜間、眠れない場合はフロアに出て頂いてお茶を飲んでもらったりしている。また、体調的に眠れない場合は主治医に相談し適切な服薬調整をもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故を防ぐため 常にダブルチェックを行い管理表も使用している。常に主治医と薬局とに連絡が出来、わからないことや不明な点は相談が出来るよう連携が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で野菜を育てたり、家事が得意な方は家事手伝いをされたり、お掃除の仕事がされていた方は掃除をされたりと役割分担が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に食事や買物に出られる方やコンビニに買物に行かれる方もみえる。介護タクシーも利用し、買出しに行く日もある。	コロナ禍で外出支援はできていない。天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、駐車場に出て日光浴をしている。家族との外出は控えてもらっているが、禁止はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居さん一人一人からお小遣いを預かり、こちらで管理し買物の際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは可能。希望があれば電話や手紙の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分や玄関には職員や入居者さんの作品などを展示している。掃除に関しては職員と共同で行っている。年2回の業者清掃も入る。	各フロアの中心部分が居間兼食堂になっていて、対面キッチンからは利用者の様子が一望に見え見守りに役立っている。壁には利用者と職員の手作りの貼り絵の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階はソファに並んでテレビを見たり出来る。テラスがあるので 気分転換に出てもらい、庭の花を愛でてもらったり出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、御本人や御家族の好みの家具や道具を持ち込んでもらっている。家族の仏壇や健康作りのエアロバイクも置かれている。	居室にはクローゼット・エアコンが設備され、その他の家具は自宅から使い慣れた物を持ち込み、個々に居心地のいい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置されており、各居室には表札が掛けられわかりやすくなっている。トイレもわかりやすく色を変えて表示されている。		